

# 農作業特報

昨年は、コシヒカリの登熟期間は記録的な高温・多照で推移したことなどから、背白・基白粒などの白未熟粒が散見し、産米品質が著しく低下しました。

今年は品質の高い米づくりに向けて、5月15日を中心とした田植えを継続するとともに、がっちりとした苗に上げるため、計画的に育苗作業を進めましょう。

## 育苗～田植え作業は計画的に

コシヒカリの高温登熟の回避と老化苗防止のため、5月15日を中心とした田植えにあわせた作業計画を立てましょう。

【5月15日植えにあわせた作業時期の目安】

種子の区分	消毒	浸種	催芽	は種	搬出	田植え
温湯消毒済以外の種子	4月17日頃		4月24日	4月26日頃	4月29日	5月15日
温湯消毒済種子	-	4月17日頃				

※温湯消毒済種子の「比重選」と「種子消毒」はしないでください（浸種作業から始めます）。

※穂数確保のため、70株植えに対応できる箱数を準備しましょう（目安：21箱/10a程度）。

※てんたかく81、コシヒカリ及び富富富は休眠が深いと予想されるので、昨年より1～2日程度浸種日数を長くしてください。

## 健苗育成のポイント

### ①比重選

◆**充実の悪い粳や、ばか苗病等の保菌粳を除去する。**

- ・比重：うるち 1.13（硫安 2.6kg/10ℓ）、もち 1.08（硫安 1.5kg/10ℓ）
- ※硫安による発芽障害を防ぐため、比重選が終わったら、種子を十分に水洗いする。

「温湯消毒済種子」を購入された方へ  
 直射日光を避け、風通しがよく、温度変化の少ない場所で保管してください。  
 また、ねずみの食害に注意してください。

### ②種子消毒・浸種

◆**発芽を揃えるため、十分に吸水させる。**

- ・水温 10～15℃で7～10日間程度（特に、浸種初日は水温 12.5℃程度に保つ）
- ・水は1～2日ごとに交換する。また、こまめに袋の上下を入れ替える。浸種期間の後半は、毎日水を入れ替える。
- （積算温度で 100℃以上が目安：水温×日数=100℃・日以上）
- ・水温が 10℃未満では芽の伸びが悪く、不均一となりやすいので注意しましょう
- ・水温が 15℃を超えそうな場合は、毎日水の入れ替えを行いましょう
- ・浸種桶は直射日光を避け、温度変化の少ない場所に置きましょう

「モミガードC水和剤」による種子消毒

- ・処理方法：浸種初日に 200 倍液に 24 時間浸漬する
- ・薬剤は少量の水でよく練って、のり状にしてから、所定の水量で希釈する

### ③催芽

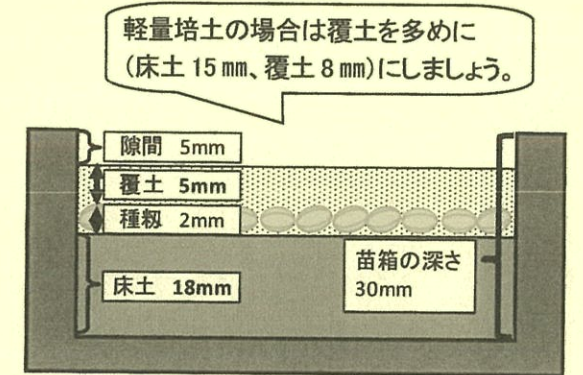
◆**温度は30℃で行い、芽の長さは「ハト胸～2mm程度」とする**  
育苗器の場合は30℃で1日を基本とするが、芽の伸びに応じて時間調整する。

### ④は種

◆**は種量は、乾粳 120g/箱を目安とする**  
（催芽粳で 150g、容積 200ml が目安）  
※は種前に空箱で、種子量を確認する。

### ⑤出芽

◆**育苗器は30℃で2～3日が目安**  
※育苗器のサーモスタットや温度計が正常に作動しているか、こまめに確認する。は種後のイメージ図（加工床土の場合）  
・芽の長さが 1cm に揃ったら、ハウスに搬出する。



## 育苗期間の温度管理

育苗期間中の気温が高いと、**苗は軟弱徒長ぎみに、また細菌性病害も発生しやすくなります。**ハウス内の温度と水管理に十分注意しましょう。

◆**ハウスの生育時期における温度管理の目安**

	緑化（2～3日）	硬化期（13～15日）
昼の温度	25℃以下 ※30℃を超える時は、搬出直後でも「すそ」を上げて換気する。	
夜の温度	10℃以上 ※5℃以下の低温が予想される場合（霜注意報）は、ハウス内の保温に努める。	
かん水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・搬出時に覆土を落ち着かせる程度</li> <li>・ハウス搬出後は、水分不足や高温による葉ヤケに注意する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床土の乾きに応じてかん水を行う</li> <li>・水のやり過ぎに注意（カビや病気の発生を助長し、根の伸びが悪くなる）</li> </ul>
	・床土の種類によって水もちや乾き方が異なるので、床土を変更した場合は注意する。	

注) ハウス搬出後は、寒冷紗などの被覆資材で2～3日遮光を行い、苗の白化を防ぐ。